



佐高

スーパー グローバル ハイスクール

SGH通信 2019

No. 5 (2019年7月19日発行)

佐高 インスパイア ファイル

佐野高校ラグビー部「気候変動」に関するセッション開催

2019年5月20日(月)、フィジーの農業省シニア研究オフィサーのテキニ・ナキダキダ氏と農林水産省大臣官房政策課環境政策室課長補佐の長野暁子氏を本校に招き、気候変動に関する講演が開催されました。本校ラグビー部は部活動の一部として、気候変動などを扱った環境教育にも力を入れており、その一環としてこの講演が実現しました。

昨年12月にラグビー部はCOP24(ポーランド)に参加しており、「アスリートが気候にどのようにかかわっていくか」というテーマに関して、高校生ができることを様々な角度から考えてきております。4月にも東京の「国連大学」において、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の室伏広治スポーツディレクターとともに気候変動とスポーツについて話し合うイベントにも参加しています。

このような活動にお二人が興味をしてくださり、今回のセッションとなりました。本当にありがとうございます。また、今回のセッションの機会をつくっていただきました朝日新聞社(論説委員)の西山良太郎さんにも感謝したいと思います。



テキニ・ナキダキダ氏

内容に関しては、ラグビー部の生徒の感想をご覧ください。

ラグビー部 部長 渡来遊夢(3年2組)

今回は農林水産省の長野さん、フィジー農業省のテキニさんのお二人から貴重なお話を伺うことができました。

長野さんからは主に農業と気候変動との関係についてお話をいただきました。農業は気候からの影響を受けやすい産業であり、人間が生きていく上で絶対になくってはならない産業です。だからこそ、「持続可能な農業」が必要になってきます。農業では、「菜の花プロジェクト」や化学肥料を減らすことをしているそうです。長野さんから最後に、気象に敏感なのは農業だけではなくスポーツも同じことではないかという話がありました。スポーツをしている自分たちだからこそできることを高校の視点で考え、実践しようという気持ちが更に高くなりました。

テキニさんからは、フィジーの農業と気候変動との関係についてお話をいただきました。フィジーという国はラグビーが有名で、島国ということもあり自分の中で勝手に親近感を湧かせていた国の1つでした。フィジーが温暖化によって危機に瀕しているということは知っていたので、このような機会を設けてくれた方々に感謝したいと思います。フィジーは国旗を見てもわかるように農業をととても大切にしている国です。そんなフィジーの農業は近年地球温暖化による海面上昇で農業用地が減り、農業をすることが難しくなっているそうです。そんな中でも島国ゆえの問題が生じてくるそうです。化学肥料を使用すると海にいるサンゴが死んでしまうそうです。こんな危機に面している国でも「持続可能」ということはとても大切にしているんだということを知ることができ、私たちラグビー部も見習うべきだと思いました。高校生のうちからフィジーのような他国の状況を知ることはなかなかありません。この貴重な機会を活かし、高校の運動部だからこそできることを考え、持続的に活動していきたいと思いました。これからもフィジーだけでなく、いろいろな国の様々な問題を調べていきたいと思っています。

女子ラグビー部 部長 大川菜月（3年1組）

今、私たちは当たり前のように普通の生活が送れていますが、世界には気候変動に伴う干ばつや洪水により暮らし、農業、命に多大な影響が及ぼされている国があるということを知りました。

私は今まで世界はおろかフィジーの現状について、考えることがありませんでしたし、知る機会もありませんでした。しかし、深刻な問題が起こっていると知り、もっと自分が当たり前の生活が送れていることに感謝をし、考えるべきだと思いました。 テキニさんは私たちが理解しやすいよう身振り手振りで所々日本語を交えてわかりやすく話してくださいました。

最後に、石井先生が話されていた「タラノア・ダイアログ」というフィジーに古くから伝わるコミュニケーション方法は、相手を理解するために必要だし、お互いを理解することが、より深いコミュニケーションがとれるのだなと思いました。

ラグビー部 藤沼伸 （2年4組）

私のフィジーに対するイメージは、小さな国と屈強な大男たちだけだった。しかし、来校したテキニさんは体は大きいもののやさしく私たちに接してくださいましたし、フィジーが直面している環境問題についても熱心に教えてくださいました。私が大きく感動した部分は、フィジーはフィジーなりに環境問題と真剣に向き合っているということだ。実際、農業が温室効果ガスを作り出していて、地球温暖化に加担していることはこのセッションを受けて初めて知った。その上で、農業が国の経済の多くを担っているフィジーが自分たちでそのことを少しでも改善していこうという姿勢には驚かされた。そこで、私にもできることはないかと考え、自分がやっている課題研究（外来魚を肥料にする研究）を大まかに説明して、温室効果ガスの削減にも効果的なのか質問した。なぜなら、このセッションの中で農林水産省からいらした長野さんが「有機肥料が温室効果ガス削減に有効」とおっしゃっていたからだ。その答えは「Yes」だった。フィジーでは肥料のコストも問題になっているらしく、こういった侵略的外来生物をうまく使うことで解決できるのではないかと考えた。今回は緊張してこの質問はできず、深められなかったが、テキニさんや長野さんのように環境問題への対策を個人でできることから始め、ラグビー部で共有し、佐野高校全体でサステイナブルな活動ができることを望んでいる。



長野暁子氏



下野新聞(5/21 付)



テキニさんとラグビー

